

韓国・中国語のすすめ

九州地域における
外国語の市場性(ニーズ)について

(有)ネイバース

代表 森脇喜一

外国語の習得 → 「無形の資産」の蓄積

(教育経済学・言語経済学)

<外国語選択の心得>

- ・希少性(※ リージョナルな視点)
- ・市場性(※ 将来的なニーズ)

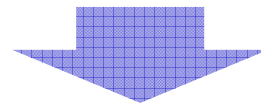
<九州地域における外国語の市場性>

- ・国際語である英語に比べ、韓国語や中国語の市場性(ニーズ)が高い ! ?

Globalism ↔ Localism

グローカリズム

(地域・地方の視点から世界に働きかける)



国際社会における「多様性の確保」

<先進諸国の言語政策>

◆ 米国 : 「English Only」 → 「English Plus」

※英語だけでなく各民族の言語を公用語として認める運動(移民の増加)

◆ EU : 多言語主義 (multilingualism)

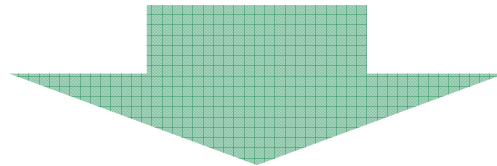
※「母語+域内公用語2言語」教育の実施

<環黄海圏諸国の言語政策>

<p>日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高一貫して英語のみを必須外国語科目として提供 ・英語以外の外国語を「第2外国語」として提供する制度はない ・英語第2公用語化論 ⇒ 国際感覚の偏重性
<p>韓国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初等学校3学年から高等学校1学年までの8年間・英語が必修科目 ・中学校及び高等学校1学年の裁量活動時間の生活外国語科目として、第2外国語教育を実施。 ・日本語・中国語・スペイン語・ドイツ語・フランス語の内、日本語を選択する生徒が全体の8割を占める。 ・高等学校2・3学年に第2外国語必須選択科目として、日本語・中国語・スペイン語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・アラビア語を提供(語種選択は学校の判断による)。 ・全体の7割近くの学校で日本語教育を実施。
<p>中国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常、初級中学(12歳)～高級中学修了(18歳)までの6年間、外国語を必須科目として学ぶ。(英語・フランス語・日本語など選択できるが、大多数の生徒が第1外国語として英語を履修) ・大都市部では早期英語教育(小学校4年次～)を導入。 ・少数民族の場合、第2言語として中国語を学習(少数民族言語保護政策) ・朝鮮族の居住する一部地域では初・中等学校で日本語教育を提供

< 言語の特性 >

- ・ 個人が属する民族への帰属意識や連帯感を培うシンボル（全ての言語は平等）
- ・ 「国家」以上に国民の忠誠心を高める媒体
- ・ 国語（国家語）としての地位が与えられることで規範化（標準語）
- ・ 政治的・文明的な理想主義を掲げる国家の言語政策は、異なる言語や特定の方言を抑圧、或いは支配者側言語への統合を図る（1937～45年：日本の対韓文化政策）
- ・ 言語そのものは価値でない。富をもたらす市場に参加するための有効な「手段・道具」
- ・ 言語は経済的な価値を帯び、その価値は言語によって異なる



< 言語の経済的な価値を見極める尺度 >

言語の機能性、言語総生産、言語の市場性

言語の対する投資、言語の相対的難易度

言語の機能性とは・・・

(A) 科学技術・医学・情報通信など、現代社会の高度な分野に適応するコミュニケーション・ツールであるか否か。

※ 多国間レベルでは英語が抜きんできた機能性を有する

(B) 共同体を形成する国家間では、英語以上に当該国の言語が機能性を発揮する。

※ EU・・・「母語＋域内2公用語」教育 ◀ 域内貿易比率(約70%)

(母語以外のEU公用語の中から2言語を習得し、その運用能力を高めることは、EU 市民が国境無き単一市場で、その利点を最大限享受できる必須条件)

※ 環黄海圏地域・・・日本語、韓国語、中国語

※ メルコスール・・・スペイン語、(ポルトガル語)

言語総生産とは・・・

- ※ 言語を生産手段と捉え、
同じ言語を国語または公用語とする国家のGDPを合算
⇒ 言語総生産 (GLP: Gross Language Product)

<生産現場>

同一言語による迅速な意志伝達と認識の共有

(例: 技術指導・研修、5S運動・・・)

<先進工業国の類型>

言語集団と国民が一致し、工業化に適応した機能的な言語が群を抜いて優位を占めている。(欧米、日本、韓国・中国など)

主要言語の言語総生産（2003年）

言語	(単位：10億ドル)
1. 英語	15,565
2. 日本語	4,257
3. フランス語	3,264
4. ドイツ語	3,225
5. スペイン語	1,935
6. 中国語	1,883
7. イタリア語	1,730
8. オランダ語	791
9. アラビア語	677
10. ポルトガル語	616
11. ヒンディー語	534
12. ロシア語	517
13. 韓国語	507
14. スウェーデン語	286
15. ノルウェー語	224

出所) International Monetary Fund. [The World Economic Outlook Database (WEO) 2003] から作成

1. 英語総生産が最も多い

2. EU言語の総生産は英語総生産に匹敵する

3. 環黄海圏言語の総生産は英語総生産の約1/2

言語の市場性とは・・・(1)

※ 輸入市場として大きさ

(=同じ言語を国語または公用語として用いる集団の購買力)

が、言語の市場性を図る物差し。

経済的に強い言語が学習者にとって魅力的なのは、そこにビジネスの可能性が存在するからだ。 ⇒ <顧客言語習得の重要性>

言語の経済的価値を見極める

「輸入額」から見た言語の市場性 (2003年)

言語	(単位：10億ドル)	(比率：%)
1. 英語	3,243	33.9
2. ドイツ語	1,338	14.0
3. フランス語	1,194	12.5
4. 中国語	879	9.2
5. 日本語	493	5.2
6. スペイン語	443	4.6
7. イタリア語	365	3.8
8. オランダ語	328	3.4
9. マレー語	254	2.7
10. 韓国語	218	2.3
11. ポルトガル語	118	1.2
12. ロシア語	101	1.1
13. タイ語	94	1.0
14. アラビア語	92	0.96
15. ヒンディー語	92	0.96
16. その他	306	3.2
計	9,558	100

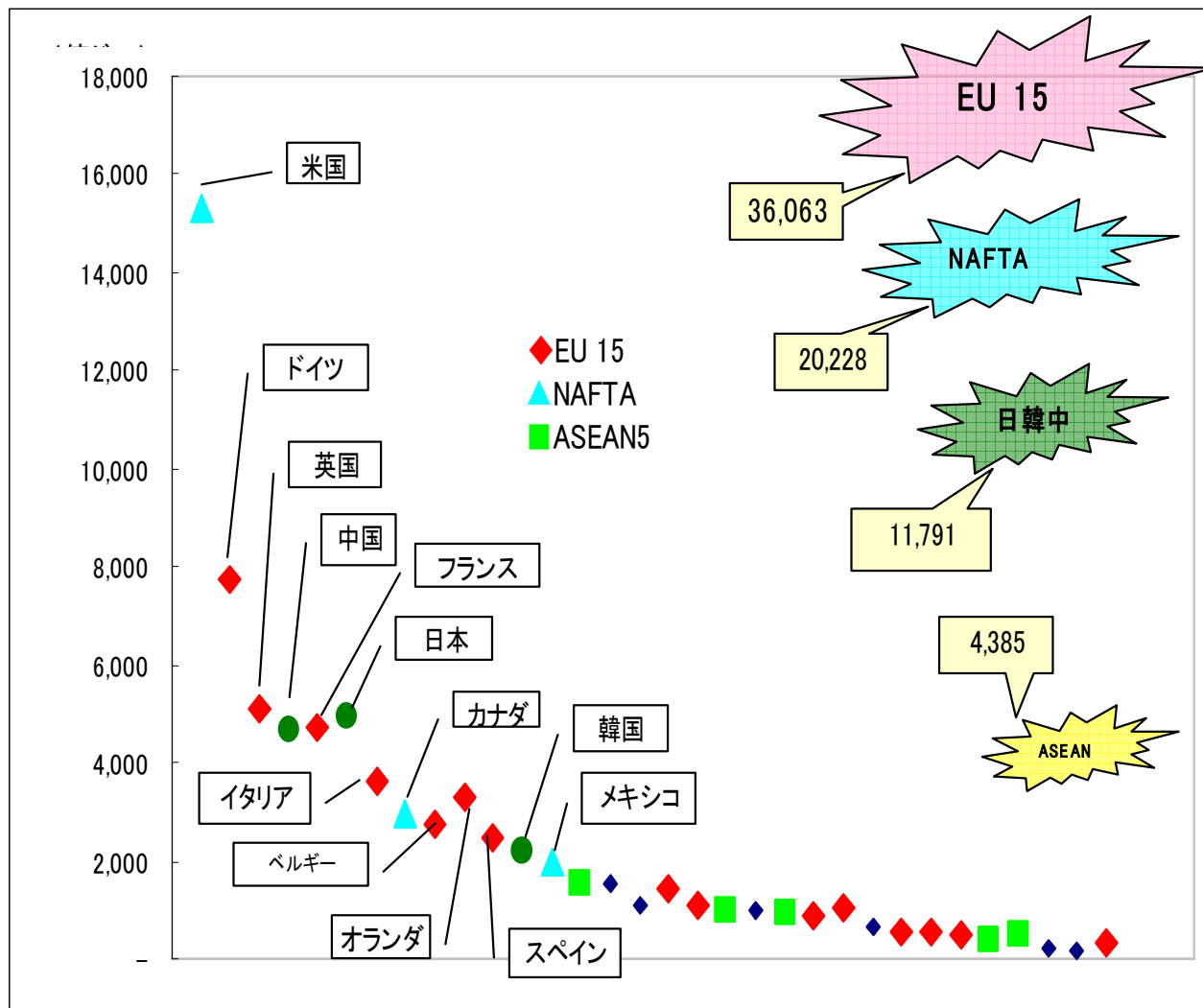
英語圏の輸入額が世界全体の輸入額の1/3を占める

英語教育の重要性

英語教育重視

言語の経済的価値を見極める

主要国及び主要経済圏の輸入総額（2003年）



経済圏別に見ると
EUの輸入市場が
最も大きい

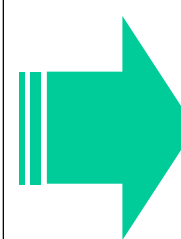
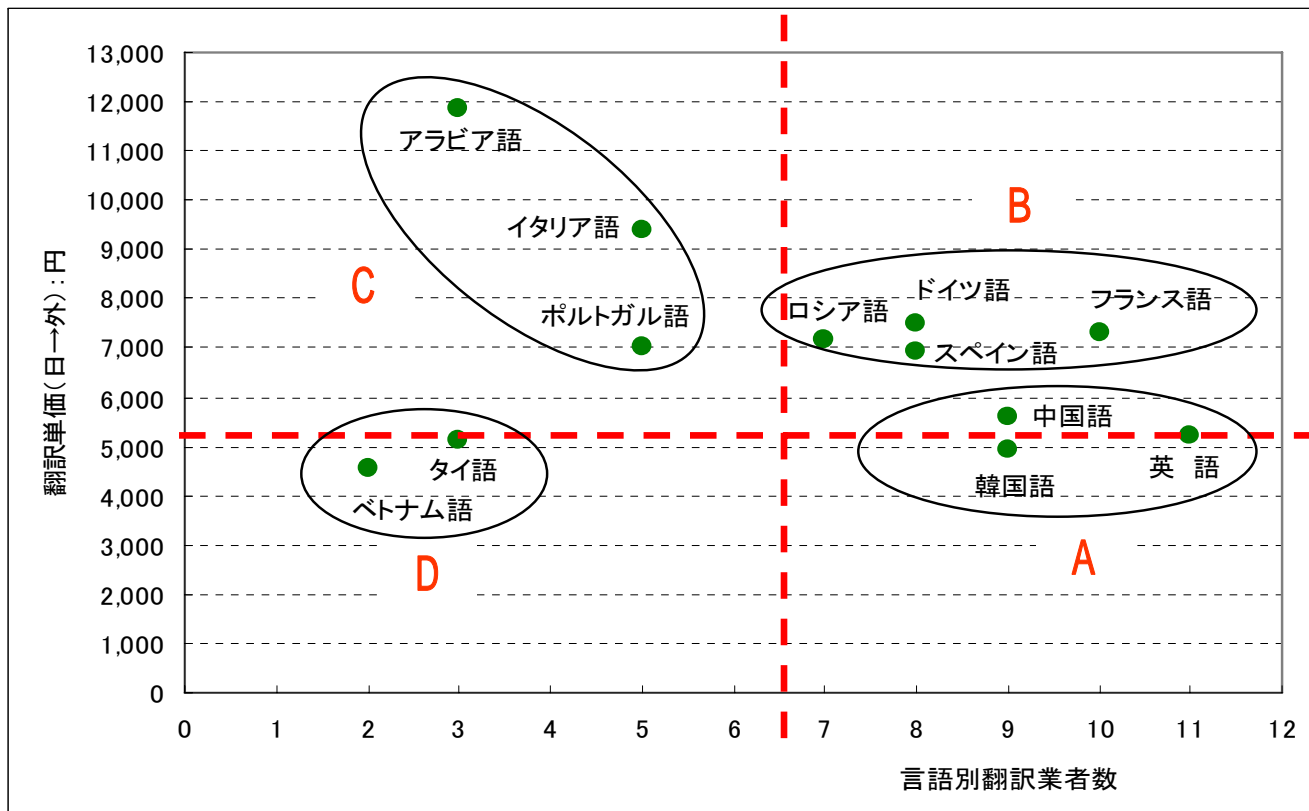
多言語教育の
重要性

※EUでは
「母語＋域内2公用語」
教育を実施

出所)WTO 「International trade Statics 2004」から作成 (単位:億ドル)

言語の市場性とは・・・(2)

言語別翻訳料(日本語→外国語)の比較



英・中・韓三言語の市場性拡大

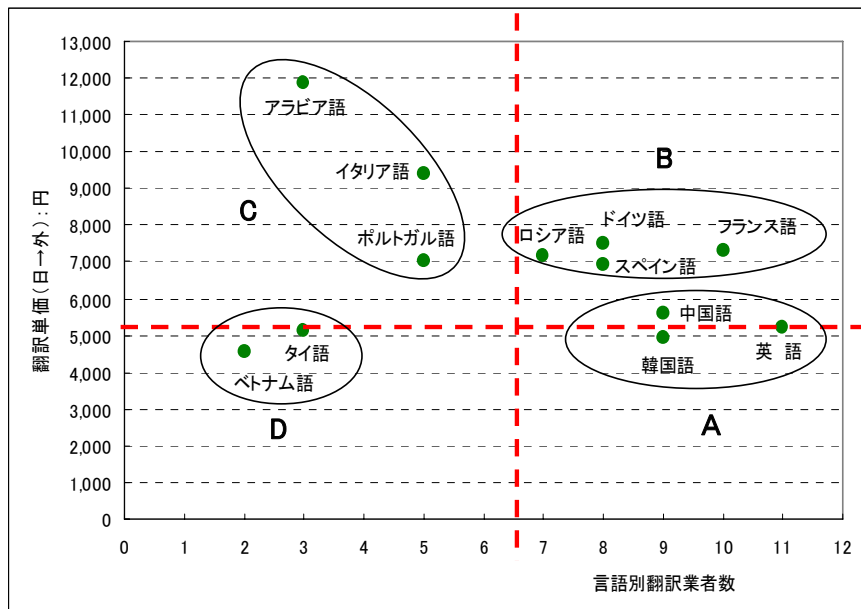
注1) 翻訳料は英語の平均翻訳料:5,221円を基準。1言語当りの翻訳業者数は6.67社(総業者数/語種数)

注2) 英語への翻訳単価が需要と供給の交点(市場均衡)に位置すると仮定

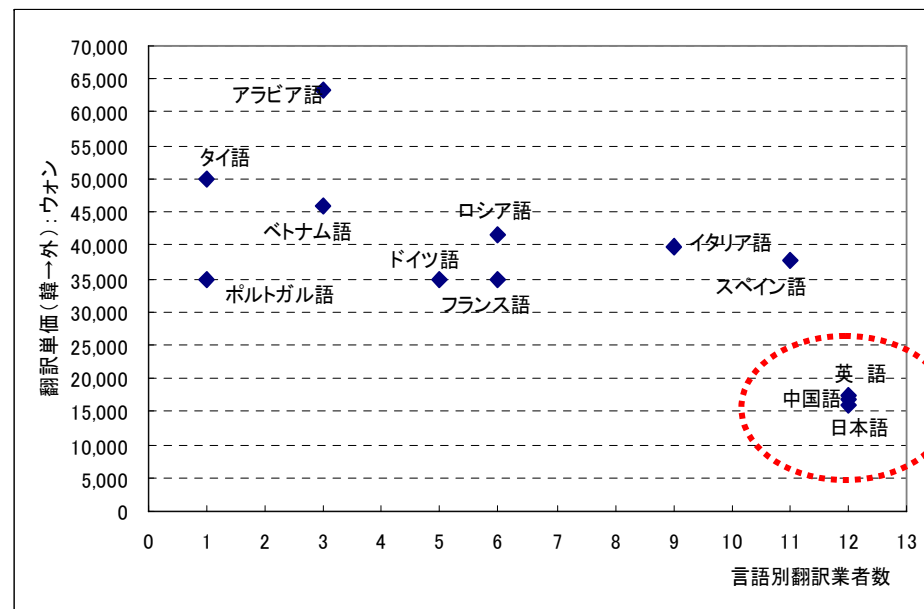
出所) インターネット・ウェブサイト上から11法人を無作為に抽出

ビジネスにおける外国語翻訳の市場性(日韓比較)

日本の言語別翻訳料(日本語→外国語)比較



韓国の言語別翻訳料(韓国語→外国語)比較



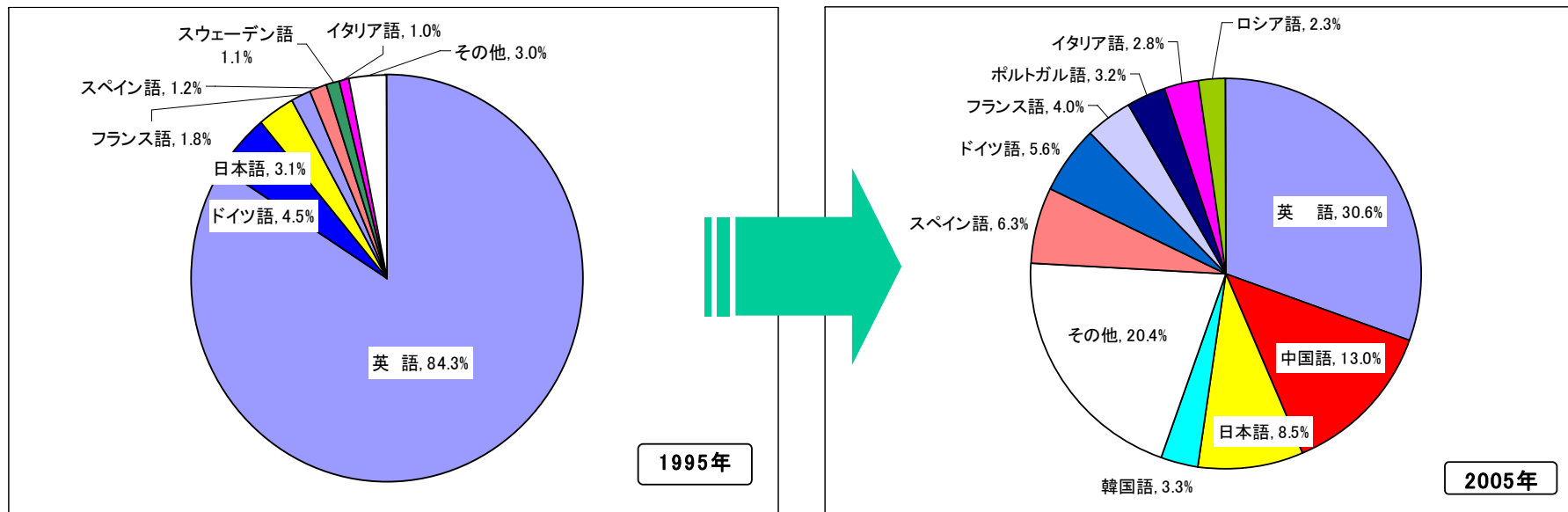
出所) 複数言語の翻訳サービスを提供する企業11~12社を無作為に抽出。各社HPに掲載された翻訳料を集計

※ 日韓両国では、英語・中国語・日本語・韓国語の市場性が高い

言語に対する投資とは・・・

印刷メディアやインターネット通信分野への投資 ⇒ 「言語」に対する投資

インターネット・WEB上での使用言語 (1995年⇒2005年)



出所)「The Future of English, Table 18」、「Internet World Stats」から作成

英語 : 84.3% ⇒ 30.6%

日・韓・中3言語 : 3.1% ⇒ 24.8%

世界の言語環境は、「多言語化」の方向にシフト！

言語の相対的難易度とは・・・

(英語話者の場合)

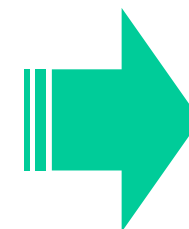
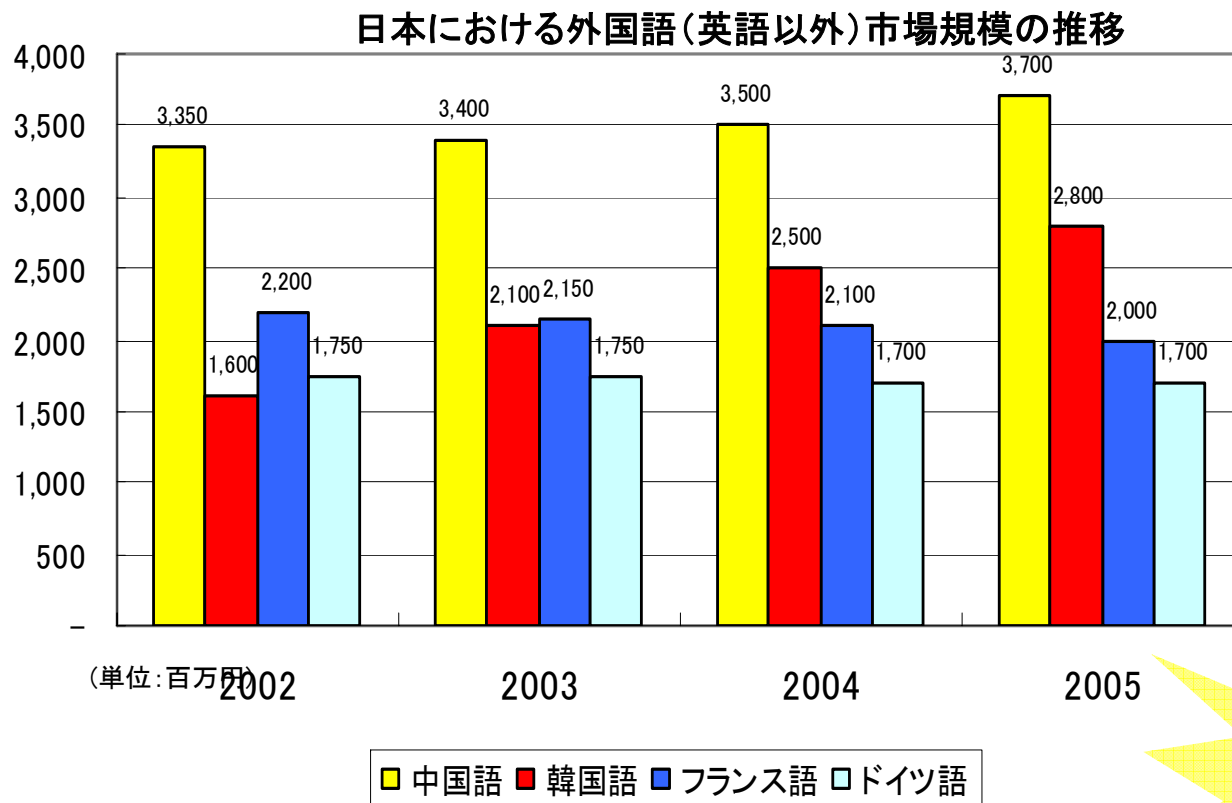
	グループ1 易しい	グループ2 少し難しい	グループ3 難しい	グループ4 大変難しい
ゲルマン語派 (6)	アフリカーンス語 デンマーク語 オランダ語 ドイツ語 ノルウェー語 スウェーデン語	なし	なし	なし
他の印欧語族 (20)	クレオール語 フランス語 ハイチ語 イタリア語 ポルトガル語 ルーマニア語 スペイン語	ブルガリア語 ダリ語 (アフガニスタン) ファルスイ語 (イラン) ギリシャ語 ヒンディ語 ウルドゥー語	ベンガル語 チェコ語 ネパール語 ポーランド語 ロシア語 セルビア・クロアチア語 シンハラ語 (スリランカ)	なし
その他の言語 (19)	スワヒリ語 (ケニア・タンザニア・ウガンダなど)	インドネシア語 マレー語	アムハラ語 (エチオピア) ビルマ語 フィンランド語 ヘブライ語 ハンガリー語 クメール語 (カンボジア) ラオス語 ピリピーノ タイ語 タミール語 トルコ語 ベトナム語	アラビア語 中国語 日本語 韓国語

出所) 井上史雄、「日本語の値段」、p111、大修館書店、2000、

難易度の
高い言語

個人がある程度の
水準に達するまでの
授業料や学習時間
を考えれば、
経済的に高くつく
言語である。

相対的に難易度の低い外国語 ⇒ 投資効率の高い外国語



中・韓両言語のニーズ拡大

(2004年)
英語関連市場規模
6300億円(98%)

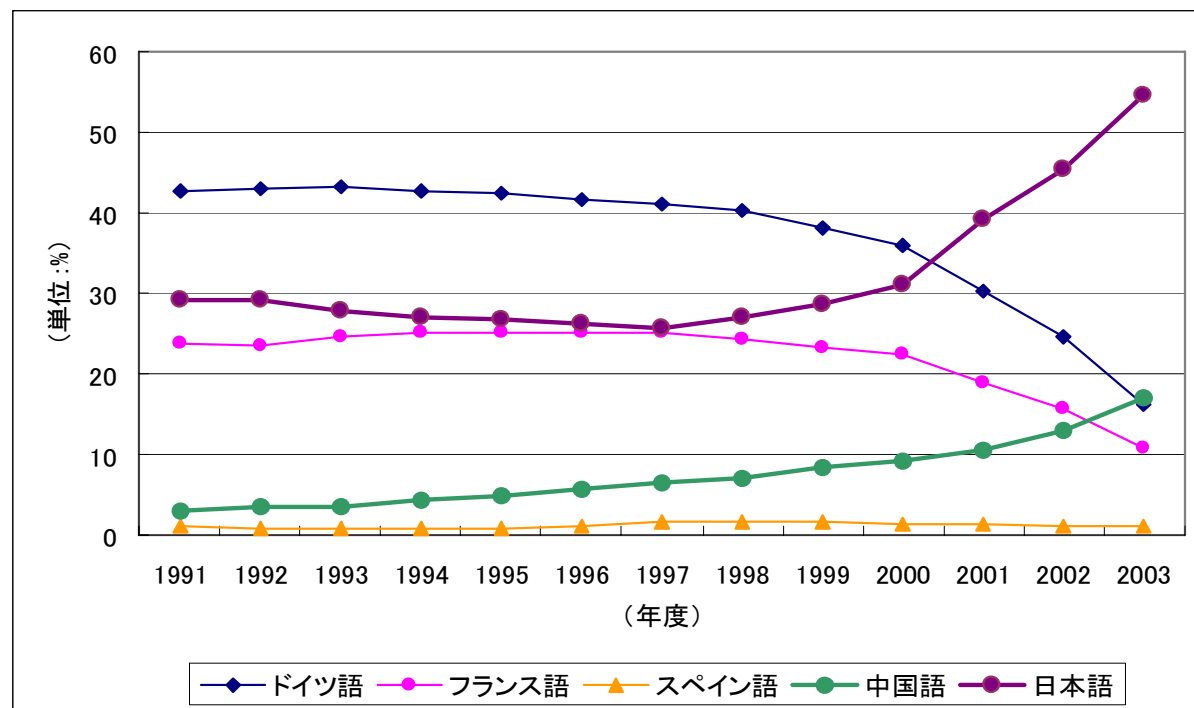
注)2005年度は予測値

出所) 矢野経済研究所、「語学ビジネス徹底調査レポート 2005」

※ 日本人にとって、韓国語・中国語の難易度は欧米言語より低い(漢字文化圏)

相対的に難易度の低い外国語 ⇒ 投資効率の高い外国語

韓国の高等学校における第2外国語科目選択比率(普通科)



難易度低い
↓
投資効率が高い

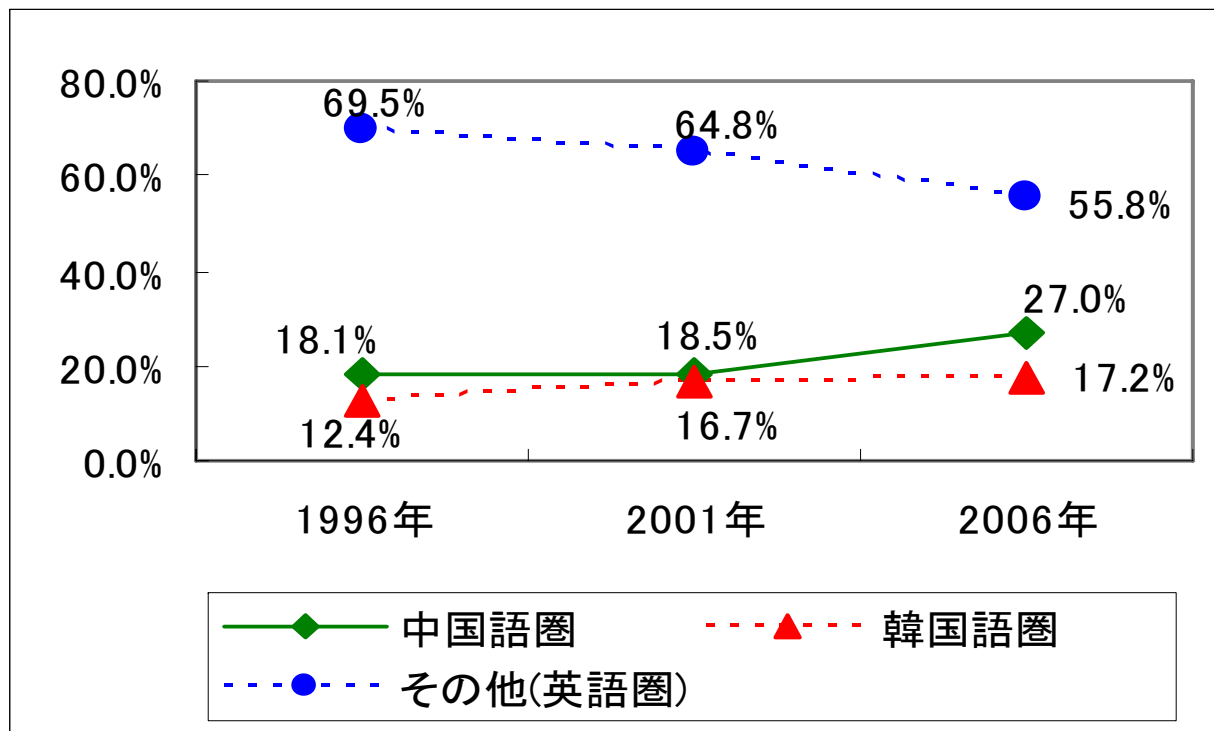
経済・人的
交流
の拡大

注) 第2外国語科目選択比率 = (第2外国語各科目選択学生数 / 第2外国語選択総学生数) × 100
出所) 教育人的資源部・韓国教育開発院、「教育統計年報」(各年度) から作成

※ 韓国人にとって、日本語・中国語の難易度は英語より低い(漢字文化圏)

言語圏別輸出から見た九州地域の外国語ニーズの変化

九州の言語圏別輸出シェアの推移(1996-2006年)



1. 中国語及び韓国語
ニーズの拡大

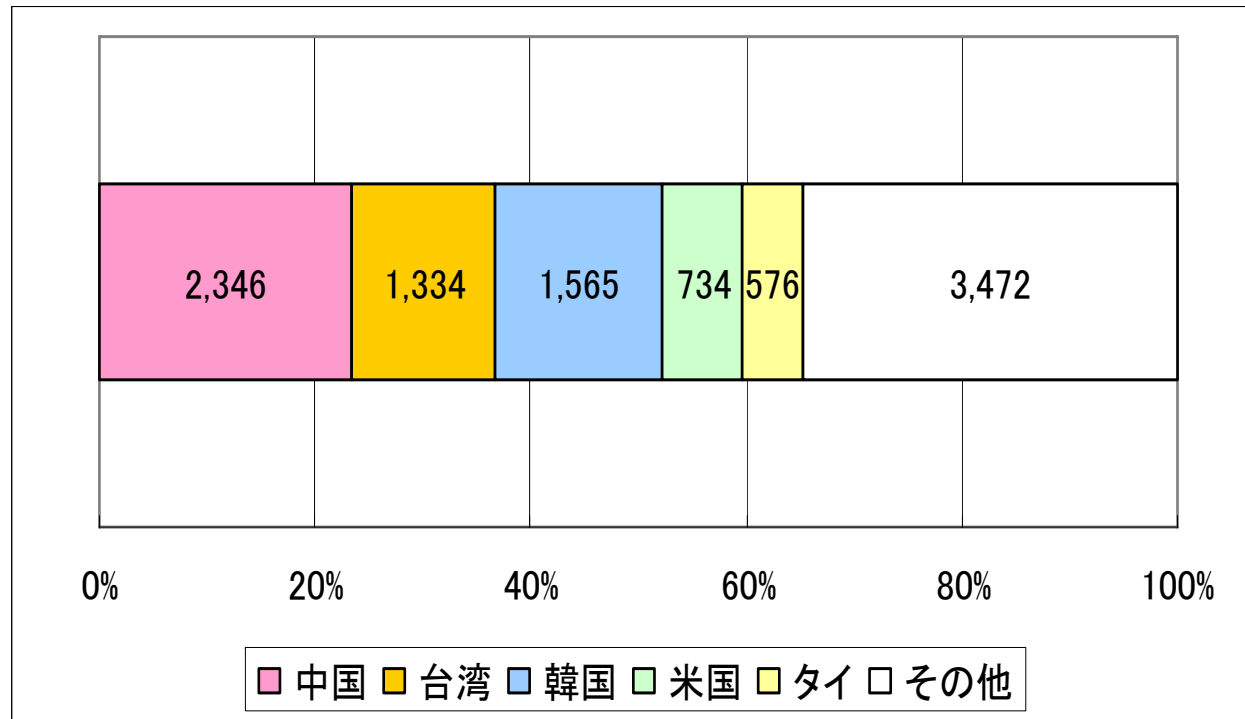
2. 英語ニーズの減少

(出所) 九州経済産業局資料から作成

九州地域における外国語の市場性 : 英語 > 中国語 > 韓国語

言語圏別輸出から見た北九州市の外国語ニーズ

北九州港における推移(2007年度)



中国語圏 : 36.7%

韓国語圏 : 15.6%

英語圏 : 47.7%

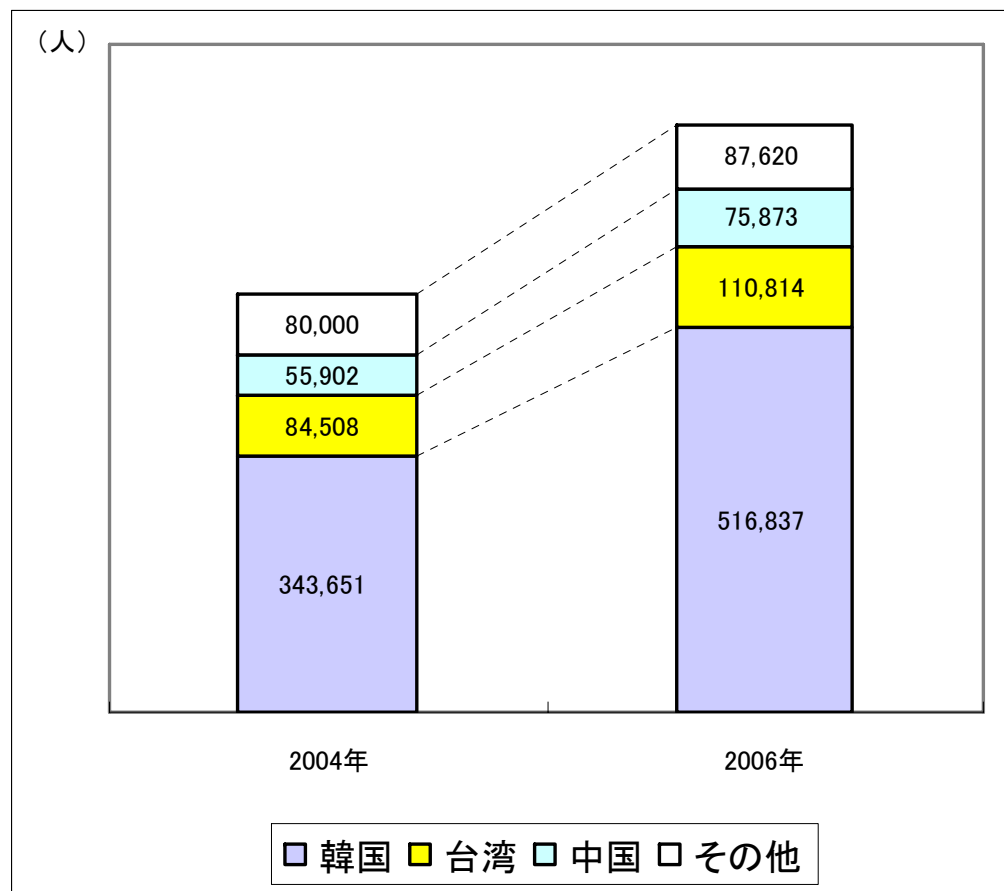
(出所) 北九州貿易協会資料から作成

(単位: 億円)

北九州市における外国語の市場性 : 英語 > 中国語 > 韓国語

来訪外国人の推移から見た九州地域の外国語ニーズ

九州の国籍別入国者数の推移(2004-06年)



言語圏別の来訪者比率(2006年)

韓国語圏 : 65.3%

中国語圏 : 23.6%

英語圏 : 11.1%

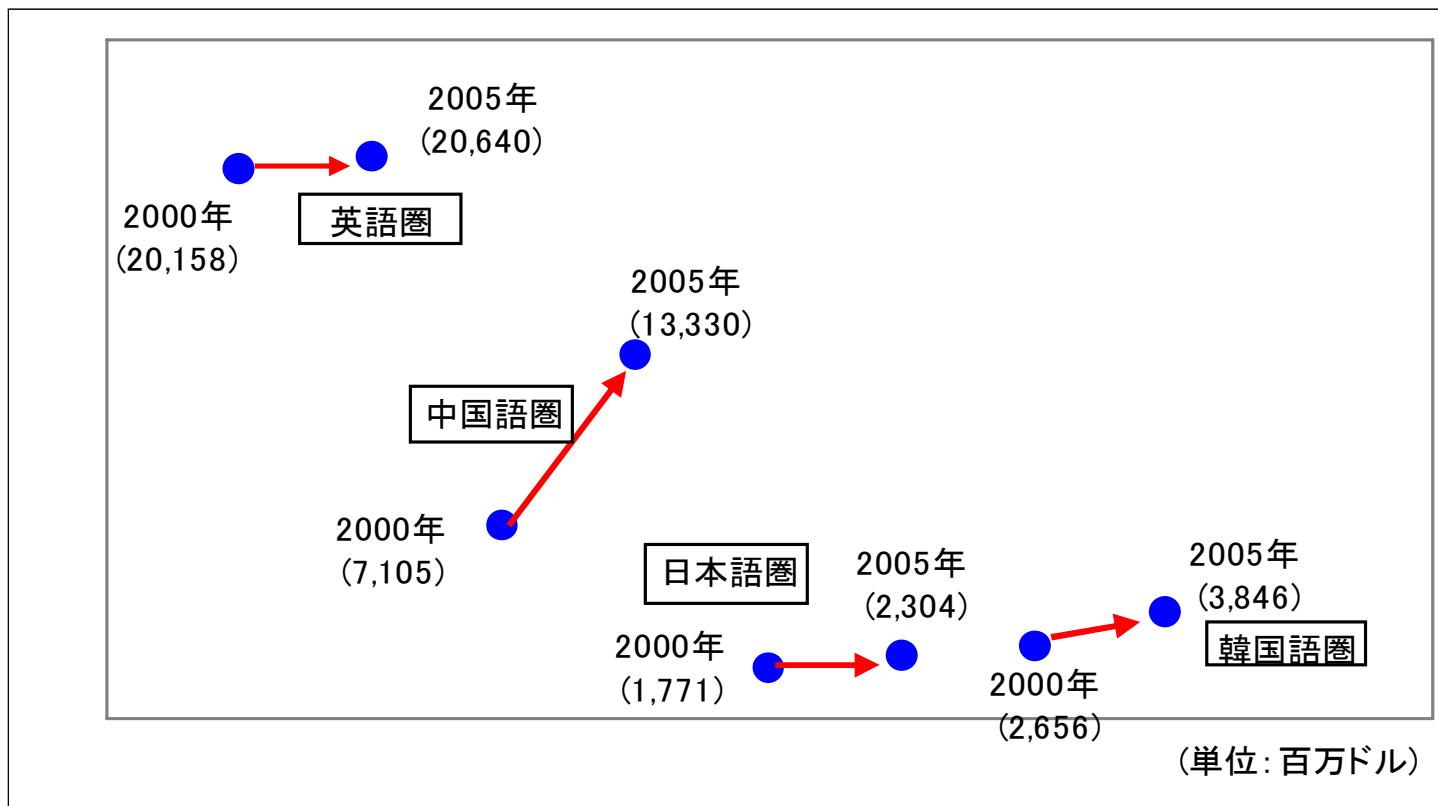
九州における外国語ニーズ

韓国語 > 中国語 > 英語

(注1) 中国は、中国・香港の合計。(注2) 再入国者数を含む
(出所) 法務省入国管理局から作成

日韓4都市(北九州・福岡・釜山・仁川) における外国語ニーズ

日韓4都市における言語圏別輸出推移(2000~2005年)

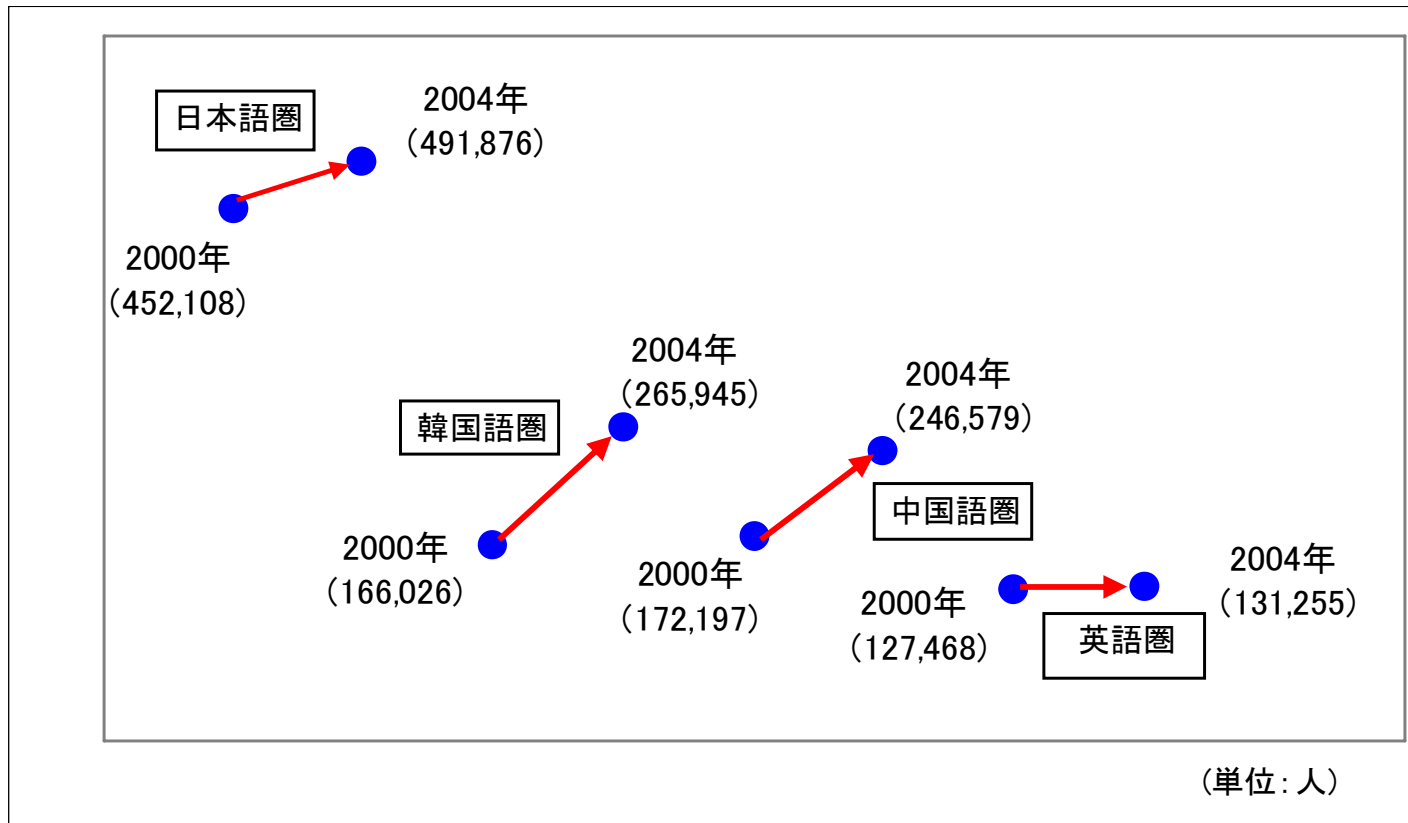


日韓4都市における外国語の市場性 :

英語圏 > 中国語圏 > 韓国語圏 > 日本語圏

日韓4都市(北九州・福岡・釜山・仁川) における外国語ニーズ

日韓4都市における言語圏別入国者の推移(2000～2004年)



日韓4都市における外国語ニーズ：日本語＞韓国語＞中国語＞英語

まとめ

- ・ 門司港－釜山港間直航フェリーの就航(08年6月中旬から)
- ・ 北九州空港－仁川国際空港間航空便の就航(08年7月チャーター便就航)

「東アジア経済交流推進機構」会員都市との交流拡大

集客交流産業(ビジターズ・インダストリー)
の活性化

国際語である英語に比べ、韓国語や中国語の
市場性(ニーズ)が一層高まる！！